

進路選択とアンパンマン



乳幼児に大人気の「アンパンマン」、中学生であっても知らない人はいないのではないかとされるアニメ番組ですが、そのテーマソングとなっているのが、やなせたかし 作詞、三木たかし 作曲の「アンパンマン・マーチ」という曲です。双子の姉妹が歌ったこの曲は、聴いていると、「幸せや喜びの意味が分からないままではいやだ」などと、なかなか強烈な歌詞が耳に飛び込んできます。幼児向け番組の主題歌としてはちょっと重すぎでは…と余計な心配もしてしまいますが、フルコーラスを聞いてみると、なんとびっくり、これでもまだまだ序の口で、比較的軽い言い回しだったことがわかります。実はメディアで流されているのは主に二番の歌詞で、本来の歌詞は冒頭から「たとえ胸の傷が痛んでも、生きることは嬉しい」というストレートパンチを繰り出し、次には「生まれた意味が答えられないのはいやだ！ 生きる意味が答えられないのはいやだ！」と左右のフックで畳みかけます。そして、「時が過ぎるのは早い、光る星はいつか消える」とアッパーを放ち、最後には「どんな敵が相手でも、生きるのは嬉しい」と締めくくる、強烈極まりない歌詞となっています。これが美しい歌声と軽快なメロディーに乗せて流れてくるものですから、なんとも戸惑ってしまいます。乳幼児向けのTV番組で、「何のために生まれて 何のために生きるのか？」と直球で問いかけるのはさすがに早すぎる気もしますが、こと中学生、それも進路選択を控えた3年生がこれを聞いたらどう感じるでしょうか？

中学校3年生になると誰もがぶつかる壁である「進路選択」。この壁に立ち向かうにあたって必要なことは何なのでしょう。入試を乗り越える学力でしょうか？ 面接を乗り切る精神力でしょうか？ それとも…。誰も不安を抱くであろう進路選択という課題に必要なのは、まず自分自身の「生き方に対する考え方」かもしれません。進路といえば、ともすると「どこの高校に進むか」だけに目が行ってしまいがちですが、「進路」は「進学」だけの意味ではなく、「生き方」のことです。どこの高校に進学するか、どこの企業に就職するかというのは、自分の生き方を実現するための「手段」であって、進学や就職が最終目的なのではありません。そこに入って自分をどう成長させるかが肝心。「進学」というのは、自分の生き方を実現していくための段階の一つです。学校だよりに記された校長先生の文章の中に、「何のために働くのか？」、「なぜ勉強するのか？」という根源的な問いに対する一つの解として、瀬戸内寂聴さんの「誰かの役に立つために生まれ、誰かの役に立つために生き、誰かの役に立つために働くのです。」という一節を紹介した件がありました。

これから社会人として自立していく中学生、まだまだ実社会デビューは先ですが、今から自分の生き方に対するフォーカシング・ピント合わせはしていくべきでしょう。「何のために進学をするのか、進学して自分のどんな力を伸ばすのか、伸ばした力を社会でどう発揮していくのか」を基準として進路選択を行い、アンパンマン・マーチの歌詞が訴えかける内容に自分がどこまで迫れるか挑戦してほしいと思います。さて、この歌詞が投げかける意味、中学生としてどう受け止めるでしょうか？

